

京都大学男女共同参画推進センター

女子高生 車座フォーラム 2019報告

知ろう! 語ろう!
京都大学!

京都大学の受験を目指す女子高生の方へ
受験の前に京大の教育・研究を知り、
学生や研究者と話しませんか?

はい、質問!

京都大学の
受験を目指す
女子高生の
みなさまへ

参加無料

女子高生の
ための

何が
できるの?

あ、
なるほど!

クラブや
サークルは?

どんな
研究を
するの?

これが
知りたい!

KURUMAZA
FORUM 2019

開催日時 2019. 12 | 22 [SUN] 10:00-16:00

会場 京都大学国際科学イノベーション棟
シンポジウムホール、他

主催 / 京都大学男女共同参画推進センター
共催 / 京都大学教育推進・学生支援部入試企画課

～女子高生・車座フォーラム 2019～

12月22日(日)国際科学イノベーション棟シンポジウムホール等にて「女子高生・車座フォーラム2019」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高生に京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらおうという企画です。今年で14回目の開催となり、高校生111名、保護者49名の参加がありました。

今村 博臣男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会進行のもと、はじめに、稲葉 カヨセンター長、理事・副学長より開会の挨拶と京都大学についての紹介がありました。稲葉センター長は、京都大学の歴史やミッション、特色入試等、京都大学について話しました。その中でもWINDOW構想については、「最後のWには、女性をサポートし、女性がより伸びるような教育をしていくという意味が込められています。」と述べ、男女共同参画のこれまでの流れや男女共同参画推進センターの取り組みについて紹介しました。

最後は、「どうぞ京大に来てください。また皆さんと京大でお会いできることを楽しみにしています。」と締めくくりました。

【女性研究者の講演】

人文科学研究所の石井 美保准教授が「フィールドワーカーになろう！」の題で講演を行いました。石井准教授は、フィールドワークの意義や素晴らしさについて話し、ガーナでの調査では「人々のいきいきとした生活を見ることができました。フィールドへの没入と再帰を繰り返していく中で、自分が変わり、成長していきます。回り道に見えることでも無駄ではなく、研究の発想に生かされます。」と述べました。

また自身の子どもを連れて村を訪問したり、子どもにヘルメットやマスクを付けて過ごしたりしたことなど、2人の子連れフィールドワークのエピソードについても話し、最後に「あらゆる場面で女子学生が活躍しています。高校生の皆さんには、希望を持って進んでほしいと思います。」と激励しました。

【京大体験型海外渡航支援制度～鼎会プログラム「おもろチャレンジ」の紹介】

総合人間学部卒業の舟橋 知生さんと理学部の学生達が、京大体験型海外渡航支援制度～鼎会プログラム「おもろチャレンジ」に採択されたチャレンジについて紹介をしました。

舟橋さんは、「バクタブルに訪問した際、宗教意匠に興味を持ち、研究したい！と思いました。周りが応援してくれる恵まれた環境で取り組むことができ、想像以上におもしろい発見ができました。」とおもろチャレンジでネパール・バクタブルでの建築意匠調査に取り組んだきっかけやエピソードなどについて話しました。最後には、「自分の夢に向かって今何をしなければいけないか考え、コツコツ取り組むと可能性は広がります。志を絶やさず頑張ってください。」と高校生にメッセージを送りました。

理学部の学生は、「4人でアラスカへと旅立ち、オーロラの音かもしれないものを発見しました。思ったより素晴らしい成果を得た。」とオーロラの音をテーマに調査したことについて紹介しました。また「女子率が低くて心配だったが、今ではとても居心地のいい場所となっています。」「3回生から専門分野を決められるので、何がやりたいかはっきりしていなくても大丈夫。ぜひ理学部を目指してほしいです。」とそれぞれの京大理学部を選んだ理由について話しました。

【グループワーク】

<高校生：講師・京大生とのグループワーク>

高校生は希望学部別のグループに分かれ、総合研究8号館に移動し、グループワークを行いました。事前に集めた質問内容をもとに、学生は受験勉強や学生生活といった実体験を語り、研究生活や専門などについては講師が回答しました。質疑応答以外にも活発な意見交換が行われ、非常に内容の充実したグループワークとなりました。

<保護者：京大生徒の交流>

高校生がグループワークに参加している間、保護者は京都大学学生との交流会に参加しました。

稲葉 カヨセンター長挨拶の後、保護者から学生へ学校生活や学部などについて疑問に思うことを数々の質問があり、学生が回答しました。(詳細は次ページからの報告をご覧ください)

【まとめの全体会】

グループワーク終了後は再び全員で集まり、まとめの会を行いました。足立 壯一男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、それぞれのグループで話し合った内容を報告し、他のグループでの話し合いについて情報共有しました。

車座フォーラム閉会後も、入試企画課と学生が残り、女子高生からの質問に丁寧に対応しました。

(詳細は冊子後半をご覧ください)

～保護者と京大生の交流～

質問1： 高校生の時って、いろんな悩みとか思いとか。精神的にも浮き沈みがあったり、疲れや眠けでなかなか勉強に集中できないときがあるような感じがします。そんな時はどのようにして乗り切られていたのか、その時に親御さんにかけてもらって嬉しかった言葉やまた逆にこんな風に言われるのはちょっといやだったなということがあれば、教えてください。

学生： 一つ目の勉強する気が起きないときは、散歩していました。散歩して頭に酸素とか送ってやっていました。それで帰ってきてやる気が起きないときは、頭を勉強するモードに切り替えるため100マス計算をやっていました。

二つ目の、親からかけられてうれしかったとかちょっと嫌だったことに関しては、それは、特になんとも言われなかったですね。なんとも言われずサポートしてくれたことはうれしかったですね。

学生： 一つ目としては、僕は勉強がどんなにやる気が起きなくても、自習室にずっとこもり続けて、全く勉強できなくてもひたすら思っていたら、いつかできるようになった感じで、ずっと外には出ませんでした。それが僕の気分転換でした。

二つ目は、親から勉強しろと婉曲的にいろいろ言われるのが本当に嫌でした。何度もけんかをしました。嬉しかったことは、何も言われなないのが一番嬉しかった。

質問2： 今、高校だと随分早い段階から文系理系選択をしないとイケないですが、入学するときも今は理学部を2年間幅広く連携できるということですが、大体の学部は、入学までに細かいところまで決めて入らないとイケないです。やはり高校生の娘ですとまだそこまでの知識もないですし方向性がわからず、親もそんなに細かい職業もわかりません。皆さんそういう時って何をもって志望を決めていかれたのですか。

学生： 理学部の学生です。学部の選択の時はおっしゃったように、最初の2年間は学科とかに分かれていなくて、理学部としてまとめて募集されている。調べたところ、そういうところが京大と東大と名古屋と熊本大でした。そしてちょっと京都に住みたいと思って京大にしました。進路選択としては、いろいろな人と話したり、経験したり、

いろんな本を読んでいたりすると、自分のやりたいこととか結構見えてきたりするので、僕も院試をやめたというのも、わりとそれだったりします。本当にこれでいいのかと疑問に思ったときは、解決になるかどうかわからないですけど、視野を広げるために人の話を聞くとか読書するとかしていました。

あまり答えになっていない気がしますけど、そういう感じです。

司会： わりあい、そういうことって大体ボヤっとして大学入って来る人も多いと思うのですが、すけれども、そっちの話があるなら、次に話してもらいたいのですが。先に、学部の中で学科を細かく選ばなければならなかった農学部とか人環とかのかたはどうですか。

学生： 私は薬学部で、大学に入ってから1回生のうちから専門科目。学問的に、専門科目を選んだ理由としては、もともと高校が医療関係に進む人が多い高校で、私自身、命に係わる仕事ができたらすてきなあっていうふうに思っていて、お医者さんとか歯医者さんとかいいなって思ったのですが、もともと科学が好きで、好きな勉強ができる、命にかかわれるかを加味したときに私は薬学部を選びました。高校時代に私が好きだった勉強が、このままできるというのが一つ将来選択の一因になったかと。何になるかということを決めるのは難しいと思いますけど、何をしたいかということも一緒に考えて。例えば本を読むのが好きだから、文学部とか、そういう理由でも私はいいと思っているので、そういう風に決めました。

学生： 私は農学部で、学科が6つあってすごくバラバラですが、それをどうやって決めたかということ、農学部のパンフレットを見て研究室ごとにやっている内容が軽く書いてあるのですが、それを見て何となく心惹かれる。ちょっと楽しそうかなというものが多く学科を選ぶようにしようと思っていました。受験の時には決めきれないところもすごく多いのかなって思います。結構そこはみんな何となく選んで研究室に入るときに詳しく卒論の結果発表とかを見て私はそこだなと思ったり、おもしろい研究室がなければ他の大学の大学院に進学したり、何回でも選択する機会はあると思うので、何となく興味があるという方向で進んでいったらいいのではないかなと思いました。

司会： 比較的京大の学生だと、決めきれずに入ってきた学生の人もいるのですが、中で彼女が言ったように、何回か選択の機会がありますし、どうしても合わないという場合は転学部、転学科という選択肢を取る学生もいますし、決めてその道で行くっていうのも素晴らしいことですが、決めきれずに自分の生きたいこと興味ある事を走って行ってその中から決めていくっていうのもいいのではないかなと思います。

質問3： 高校2年生の女の子で、先日の高校の三者面談の時に、女の子は一生懸命頑張っているけれど、結局高3の時に男子の方が、体力や力があるので、今の成績を男子の方が抜いていってしまう。それだったら、今から、もうダッシュかけないと追いつ越されてしまうよという風なことを言われて、すごくショックを受けているようです。実際、運動部でもないし、体力もないので、どこかで疲れてしまったらという心配もあります。女の生徒さんでそういったことを感じられたことはありますか。

センター長： 一般的な話ですが、女の子の方が競争力に弱い。競争するっていうことに弱いんですよ。男の子の方ができなくてもいやできるんだ、と自己暗示力が強い。そこが最も大きな違い。だけど女の子は持久力はあるので、しっかりと自分自身を持ち続けることと私は思います。アメリカの統計も日本の中もそうですけど、男子と女子と例えば数学、このくらい男の子はできると、女の子はできなかったらどうしようと思うんですよ。だからできるという自己暗示、自分自身を強く持つということなんです。あくまで女の子の方が失敗を怖がるというのがあります。失敗したらどうしようって思ってしまう。失敗は失敗でいいんですよ。男の子はいやできるんだと、無鉄砲さ丸出しという子たちがいますよね。ひょっとしたら男のお子さんを持っていらっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、女の子と男の子っていうのは、日本がそうだっていうわけではなくて、世界中がそうなんです。

その辺は親の方として、そこをちゃんとわかってあげて、いいじゃない失敗したってと言ってあげられることが重要かなと思います。

質問4： すごく悩んでいます。娘は高校2年生なのですが、高校1年の終わりくらいに文系理系を決めないとイケなくて、その当時うちの娘は、本当に何をやりたいのか、どこに進んでいきたいか、全くない状態でした。しいて言えば政経かなという感じで文系を選びました。でも、数学を勉強しているうちに数学がちょっと得意になって、先生も進路を決めるときに君は理系だと思っていた、と言われました。文系では経済学部の方にすごく興味を持ち出しました。そこで、受験の時にそういう変更をされたかた方がいらしたら教えていただきたい。

学生： 本当は理系だったのですが、2年生の時。理系でもすごく数学が得意だったのですが、法学も勉強したいなって文系に行きました。社会史もすごく苦手でしたが、文系だと数学ができるとすごく強いです。英語とか国語とか、あんまり差がつかなくて文系って対外数学出来ないの、数学出来れば大体受かる感じになるので、全然それはいいと思います。

学生： 文系理系や受験でどうこうという悩みはなかったのですが。好きか得意でというと、僕は得意で理系をえらびました、高校生の時。大学生になって、数学や物理が好きだったのですが、どちらかというとなりが好きでした。大学入って数学の授業を受けたら、僕がちょっとポンコツな部分もありますけど、無茶苦茶難しくて、わりとすぐにあきらめてしまいました。受験の時には全然ダメだった化学の授業の方が面白くどんどんはかどりました。今、受験する学部としては好きで選んだ方がいいのかなと思います。

学生： 逆ですけど、進路選択の時には文系科目の方がすごく得意でした。でも薬学部に行きたかったの先生にすごく相談しました。薬学部に行きたい気持ちはあるけれど、文系で受験をした方が得意科目を生かしていい大学に行けるんじゃないか、というような相談をした時に、私の本心は絶対ここ、で選んだ方がいいって言ってくださったので、最終的に薬学系の方を選択しました。でも、最後まで得意科目は文系でした。結局、理系でも英語とか国語は必要ですし文系科目を生かして、受験でも点数を取ることができたので、理系科目が得意で文系に進んだとしても、理系科目を出して受験はできると思うので、そこは、やりたいことで選んだ方が、やりたいことがあるから大学で勉強するんだ、とモチベーションにもつながる気がしますし、やりたいことでいいんじゃないかというふうに私は感じました。

学生： 経済学部の話ですが、経済学部の入試方法は今、文系入試と理系入試、特色入試と3つありまして、もしお子さんが経済に興味があって理系入試を受けるっていうのなら、社会とかは確かなくてよかったという選択肢もありますよということを提示させていただきます。ただ、理系入試というと理系なので数学がすごくできる受験生が、そこで凌ぎを削りあって、その結果、入れるかっていう感じなので、自分が浪人していたときも、理系入試で受けましたが、浪人の時になってやっぱりだめだから文系に文転しそれで受かったという人もたくさんいます。この3つの入試制度が経済学部はありますということを知っていただいたうえで、お子さんの一番やりやすいというか、一番合格できそうな、そういうのを考えてみるのも一つの手だと思います。

司会： ありがとうございます。得意科目と好きな科目が違う人がいますし。自分自身もそ

うだったの、やりたいことのためなら、頑張れる。しかも文系で理系が得意ならそれが武器になる。比較的悩まなくてもいいかなと。

うちの大学ではないですけど、後期科目で経済学部は数Ⅲが必要な学部もあつたり、単に文系の学部でも、文系の点数だけじゃなくて、いろんな入試形態があるので、あちこち調べてお子さんと相談していただければと思います。

質問5： 女子高生車座フォーラムということなので、ちょっと女子学生の皆さんにお伺いしたいのですが、先ほどセンター長のお話にもありましたように、どちらかという男子の方が無鉄砲な子が多いという話で、うちには女子も男子もおりますので、それはよくわかるのですが、そうなったときに、女子学生の今日いらしている皆さんがご自分を無鉄砲だと思ふことがあるのか、また、ご自分の周りの友達とか京大に行かなかった友達を考えたときに、やっぱり京大に来ている女の子たちの方が、無鉄砲な傾向が強いのかと思われることが多いのかどうかということをお聞きしたいなと思います。併せてどうしたら無鉄砲な女子高生が増えるのかということもお伺いしてみたいなと思います。

学生： 私は医学部医学科なのですが、定員で1学年が115、6名いますが、そのうち女子が毎年15人とか20人とかなんです。特に京大は女子の医学生が少なくて、そういう中でしかも私は富山県の公立高校出身で、富山県で浪人してということになったら、その予備校からも京大は出たことないし、女子でそんなのは聞いたことがないという感じで。先生からも反対されて、三回受けたら一回受かるといわれて、私は浪人して2回目受けるときに、二回目受けるから三分の2だなんて思って、全然数学じゃないですが。受かるかなと思って、ありがたいことに受かりました。先ほどセンター長のお話にもありましたとおり、女子の方が持久力があるというのは、そのとおりだと思っていて、周りの男の子たちを見ていると、浪人しても冬休みから頑張る男の子達が結構いて、でも私とか私の周りの女の子たちは、高校生の時から地道に頑張っていたとか、そんな子たちが多くって、その無鉄砲さというの持久力に裏付けされた自信という形で、女の子にはそなわっているのかなという風に私は思っています。

私は入試の時は、三分の一しか受からないと言われて受けた、結構勇気は必要でしたが、そのかわり、滑り止めみたいなのも結構受けていて、私立の医学部だと、入学金とかで100万、200万とかで授業料もすごく高いので、私立の医学部はちょっとなあとあって、私は文系の科目がすごく好きだったので、私立の法学部とかを滑り止めにした。無鉄砲さという意味で京大医学部をまっすぐ目指し進んでいく時に、自

分にちゃんと安心できる場所があって心のゆとりみたいなものがあったので、その無鉄砲さを維持できたかなという風に思います。

学生： 私自身は無鉄砲さが足りないですが、女の子が京大を受けるということ事態が、勇気がいることだと思うので、そういう意味では他大学の子や普通の女の子よりも無鉄砲さがあるのかなと思います。勉強の仕方とか同じ専攻の女の子たちの様子を見ていると、勉強の仕方あまり無鉄砲さはなくて、コツコツ着実にやるっていうタイプの子が男の子に比べたら多いのかなというのが私の印象です。あとは他の大学に行った友達と京大の友達とどう違うかということだったと思いますが、無鉄砲さというのも分からないですが、京大の周りの女の子達は、すごく自分のやりたいことがはっきりしている子が多いかなと思います。もちろん協調性のある子も多いですが、自分はこれがやりたい、こっちの道に進みたいみたいな意識、例えば大学での研究室の選択などの時に、周りに合わせるのではなくて、自分の意思を大事にしているという印象は私自身持っています。

学生： 先ほどの話と結構被ることもあるかと思いますが、無鉄砲に見える行動の裏側って、何か好きな気持ちとかやりたいという強い気持ちがあるのではないかなと私は思っています。私は総合人間学部の文系で入試を受けまして、数学がとても重要です。私、すごく数学が苦手です。高校の先生には、まあまあ反対されていました。どうしても総合人間学部が好きで入学したいという強い気持ちがあったので、入試することにしたのですが、それは無鉄砲と言えたのではないかなと思います。

質問6： 自宅が神戸の方で、もしこちらの大学に入れるのだとしたら、片道2時間ほどかかりますが、1日のうち4時間通学に費やすのは、ちょっと大変だなと思っていました。もし、一人暮らしをするとしたら新しい大学生活に初めての一人暮らしが同時に舞い込んできて、女の子ですが、朝も一人で起きられないし、家事も全然できないし、不安があります。そうした通学をされている友達がいらっしゃる方、通学が可能かどうか。一人暮らししてみてよかった点、悪かった点など教えてください。

学生： 私、大阪出身で、最初通えるかなと思って、ドアツードアで片道1時間半くらいかかっていましたが1回生の9月くらいまでは通っていました。

でも、ちょっと勉強が大変だったり、サークル活動とかあって、通学するより京都に長いこといられたほうが良いかなと思ったので、途中から下宿をしました。正直大

阪くらいからだったら通っている子が、私の4回生のなかでも、いるといえますけど、やっぱり、楽ですね。下宿したほうが大学までも近いのでしっかり眠れたりとか、テスト前とかも夜遅くまで残って勉強できたりするので、それはあるかな。ただ、兵庫から通っている子も、私の友達にはまれにいますので、無理ではないかなという印象です。そこはお子さんの通いたいか通いたくないかによると思います。家事は必要に迫られたらやるようになるかなという気がするのですが、あんまり心配しなくてもいいかもしれません。

学生： 私自身もちょっと引越の際に、母親がついてきていて、母親と二人暮らしをしていて、すごく楽をさせてもらっています。友達は結局みんな一人暮らしで、最初はすごく大変そうで、5月くらいの時にサークル、新歓とか少し落ち着いた時に、みんなすごい風邪をひいたりして、確かに大変そうだったなあと思っていました。

でも、お互い調子が悪くなったりするときがあるので、だんだんみんなポカリと熱さまシートを買ってきてくれるように。玄関先に置いてくれたら、お金を置くというような感じで、隣通し助け合っということも下宿生が多い分、助け合いとかもできているなってときどき思いました。あと、ご飯を作るのは、最悪外注できますし、食堂とか食べる場所も一杯あります。実質、洗濯とか自分がやっていけたらいいと思います。

学生： 私は実家にいたころはほんとに家事もできなかつたし、朝も一人で起きられず、小学校とか毎日遅刻していました。絶対に心配だったと思いますが、京都大学に入ったということで、一人暮らしさせてもらったのですが、1回も後悔したことはないです。初日だけ悲しい気持ちになったんですけど、そこからは家事とかも自分のできることからどんどん広がっていく感じがして、すごく楽しくて。この日は初めて料理をした、で、これが作れるようになった。排水溝の掃除ができた。とか、どんどんできることが広がっていくのが、すごく楽しくて。ほんまにいろんなところから人が来ていて、一人暮らしが多かったり、先輩とかの意見も聞けたりする大学って、京都大学が一番だと思うので、そういう点でも結構安心はできると思いますし、あと私的に折角京都に来たので、ここからいろんな世界遺産とかお寺とか自転車ですぐいけます。だから今日は何か授業に行く気がしないから、もみじ見に行こう。すごくあこがれていた大学生活を京都という地ですごく楽しい生活ができていますので、あまり心配することはないかなと私は思います。

学生： 私は東京出身なので、一人暮らしをしています。一人暮らしに関して親に感謝していること、やっぱり私は女子だったので親も一人暮らしを心配して、もったいないくらいいいところを、安全でちゃんとオートロックのあるところ、玄関が建物の中という結構いろいろ考えて部屋を選んでくれました。正直もったいないくらいいい物

件で、申し訳ないなという気持ちもありつつ、おかげで安心して暮らせているなって思うことが多々あるので、女子生徒だから安全なできるだけいいお部屋を選んであげようと思ってもらったら、お子さんもきっとありがたいって思うと思います。私自身もそうでした。

ただ、家事とか掃除とかあんまりできないので、私自身も全然できなくて、今、他の方のお話を聞いていると、一人暮らししたらできるようになるという人が多かったんですけど、私の場合は、そんなに成長してないんで、本当に不安なのであれば、ちょくちょく様子を觀たりする方がいいかもしれません。

司会： 家事、とくに食事の面は、大学の近くに住んでいる子は学食も近いですし、飲食店も大学生向けの物がたくさんあるので、ちゃんと作っているかより、ちゃんと食べているかを心配してあげればいいのかと思います。特に周りの男児学生もそうでした。あとこの大学、京都、京大だからということもあると思いますが、他の大学と比べて、特殊だなと思うのは大学の近くにみんな住んでいます。電車に乗ったり自転車もいらぬぐらいのところに集まって住んでいるので、そういう意味では一人暮らしも比較的安心して暮らせると思います。

質問7： 今、高校1年生ですが、ちょうど文理に分かれる時期です。その文理というの、理科の何を選択するかってところで、物理化学生物とがあります。皆さんはどのようにその教科を選ばれましたか。うちの娘は、今、現在物理と化学を選んでいます。本人が大好きなのは、生物です。でも、周りの人たちが生物は点が出にくい、物理の方が点を取りやすい。生物だとすみずみの方から出題される、そんなことを塾の先生から言われました。皆さんは理科の教科をどのように選ばれたのか、参考までに教えていただければ。

学生： 京大の一定の受験者は、割合を見ると大多数の人が物理と化学を取っている印象が強く、これはほかの大学を受けるときのなんですけど、理系だったら物理と化学をとったらほぼこの大学でも受けられるのですが、生物を選択すると受けられる大学がそれだけで限られてしまいます。狭まってしまうので、物理と化学を取っておくのが広いというのと、高校の時は物理と化学を勉強して、大学で別に生物のところに行けば、高校の範囲から生物の勉強をそこでしなす。そういった道を通る人が多いので、僕は一応、物理と化学を取っておいた方が無難かなと思います。

学生： 私は化学生物で受験しましたが、なぜ物理じゃなくて生物の方にしたのか。本当に単純に物理が嫌いだったというだけの理由で選びました。私自身は、受験校とか考えるときに化学生物を選択したことで困ったということはありませんね。

ただ、大学入ってから医学研究科人間健康科学専攻というところに所属していて、医学系のところなので、生物系の知識がかなり役に立って、生物を取っておいてよかったと思いましたし、あと一方で物理系なところもちょっと勉強しておいたらよかったなとか、そういうのも、やっとならよかったなあと思うこともあるので、将来、何が役に立つかわからないんですけど、今は得意、不得意、好き、嫌い、本人の意向に任せて、やっとならいいんじゃないかと、私自身は思います。

～まとめの全体会～（各学部教員からの報告）

（文学部）

高校生全員の自己紹介をしていただき、その時になぜ文学部を選んだのかということも話してもらいました。自分の将来の夢などからめ、文学部でこうしたいというはっきりした目標を持っている人も多かったです。それをもう少し具体的に、その夢を叶えるためには、この分野でいいのかとか、文学部の中には専門分野が隣接している領域のものがあるので、こういうことをやりたい場合はどっちのほうがいいのかという話をしました。

中にはやりたいことはあるけど、それを続けられるかわからない人もいました。そんな人はたくさんいるので、今はそんなにはっきり決めることはない、文学部では3年生の時から専門分野に分かれるので、それまでは広く学んで自分が一番関心あるところをそこから探してもらえばよいと話しました。

後はありがちな質問で、文学部で就職できるかという質問がありましたが、一つのことをやり遂げたという経験は企業の方でもよく評価してくれているので実際就職していますし、心配ないと答えました。

高校生活の中で数学の勉強はどうしたらいいのかという質問や、大学に入ってからの下宿生活であるとか、アルバイト、サークルについてなどは学生に回答してもらいました。

参加者5名で少なかったですが、その分皆さんの本音がよく聞きだせることができたと思います。私としては非常に楽しい時間でした。

（教育学部）

教育学部は7名の方が参加しました。学部生3回生の方と参加しました。

自己紹介を行い、参加動機など聞きましたがすごくしっかり考えてきていました。教育とか心理学に興味を持っていて、教育学部に興味を持っていることをしっかりと話せていました。それにかからめて、教育学部の特徴をお話したり、学部の雰囲気はどうかという質問に対し、こじんまりとしてアットホームでいいとこだよ、という話をしました。

ゼミの持ち方であるとか、専門を大きくは教育というところからどういう風に進路をとっていくのか、ということを学生もとても実感のこもった回答をしてくれました。

高校生の時にやっておいたほうがよかったことは何か。勉強時間と部活との両立というところで迷っている。このような質問に対して参加者同士の意見も交わしながらいろんな話ができかなと思います。今生きているうえでの関心ごとでも話ができ、とても楽しい時間でした。

（法学部）

自己紹介と、今、気になっているニュースを聞いてみました。すると、環境問題、子どもの権利、子ども食堂、刑事事件。もっと身近なところで自分の学校の制服の下にタイツが着

れるようになった。規則のことであまい規則ではいけないのではないか、という問題意識を持っていたり、子供のこと、非常に身近なところから法律、社会経済を非常に強く感じて、しかも自分の頭で考えている、という印象が最初から強く感じられました。

質問も多くいただき、特徴的だったのが、外国に留学してみたい、国際的な仕事をしてみたい、というような方が複数おられて、そもそも広い視野を持って、すでにいろいろと考えているようでした。特に女の子の方が、海外に向けた広い視野を持っているのだなということを感じました。弁護士になりたいという人でも、こういう分野の弁護士をやってみたいという話もあり、いろいろと思っているようでたくましいと思いました。他方で入試に向けた勉強はどうしたらよいか、長文読解はちょっと不得意ですといった質問には、学生も一緒に考えてくれて、難しいよねという話をしました。法学部としては、現代文が非常に重要なのでこの後も深めていただきたいと思います。

京大の法学部の特徴はなによりマイペースに自分の人生を考えることができます。東京大学と違ってこんないいところがあるという話をしました。法学部やロースクールや研究室も見てきて下さいと話しました。大変楽しく気持ちもフレッシュになるような会でした。

(経済学研究科)

今回6名が参加しました。

自己紹介、内容については進路や授業内容、ゼミへの加入、語学、留学に関してなど活発に質問があり、あっという間に時間がたってしまいました。

経済学部の学生は、一般的に留学までに明確な目標を持っていない人も多くいます。その点は詳しくお話をさせてもらいました。入学後に経済学部で開講される科目や全学開講されている科目を受講して、どんどん自分の関心を深めていただいたうえで進路を決めていただいたらよいと話しました。

それを聞いて少し安心した、と身近に感じていただいたように思いました。

経済学部の女性教員になってよかったところは、特に男女差を感じないところです。男子女子ということを実感したこともありません。皆、和気あいあいとしていて過ごしやすいところです。

(理学部)

7名が参加しました。

自己紹介しながら事前の質問に回答する形で始めました。今回の参加者は生物系を志望されている方が多かったです。グループ担当の学生も生物専攻だったので彼女から直接回答してもらいました。

京大の変なところはどこですかという質問には、担当の学生から総長が一番変であるという話から始まりました。あとは生物が医学と理学とどう違うのか。それから、女子寮はど

うですか、英語は必要ですか、理学は時間の拘束が必要ですか、という質問がありました。高校生のあいだに物理や社会の選択をどうされたのかという質問もありました。全体的に理学はゆっくりとした専門科ということで、入るところでは何を専門にするかは問いませんので、3年生になるまでにゆっくり考える時間があると説明できたかと思っています。

(医学部医学科)

11名の高校生が参加されました。

最初にここにきた動機を聞くと、知り合いに誘われたり先生にアドバイスを受けたという方もいましたが、遠く関東の方からも来ていただいたり、いろんな志を持って来ていただいていたいました。

医学は医師国家試験を受けて医者になるわけで、臨床と研究をどんなバランスでやっていくのかということを知りたいという質問がありましたので、みなさんに聞いてみました。研究をバリバリしたいという方は11名中2名、残りの方は臨床もしたいということでしたので、ちょうど今回このグループの担当の学生がすごく特殊で、医学部に在籍しながら大学院に行ってそこで学位を得て、そのあとで臨床実習に入るといったコースの方でしたので、研究についてもたくさんアドバイスをいただいたのではないかと思います。

研究についてはいろいろあり、例えば細胞のことであれば医学部を出たほうがいいのか、農学部でも扱うだろうからどっちがいいのだろうか。東大と京大とでは臨床と研究とのバランスが違っていると聞いたけどどうなのでしょう。など難しい質問も多かったのですが、私たちの印象として話をさせてもらいました。

他大学を卒業して京大の院に来れるのかとの質問には、もちろんそういうこともウェルカムですよという話もしました。どうやって勉強したらこの医学部に来れるのかという受験勉強の極意のような質問もありましたが、そこは学生にアドバイスいただきました。勉強ばかりではなく、少しリフレッシュするような自分のやりたいことをやる時間を見つけたほうがいいよ、と一般的なアドバイスをしていました。

この質疑応答の中には、私自身の子育てにも応用できるようなものがあり、貴重な時間を過ごすことができました。

(医学部人間健康科学科)

医学部人間健康科学は6名の参加者がありました。

人間健康は看護、臨床検査、作業療法、理学療法における高度医療を自走させるような人材を育成しているところですが、来ていただいた参加者もわりと明確に看護学に興味ある、再生医学に興味がある、災害医学に興味がある、という目的をお持ちだったのでそれぞれの分野でどういう人材を育てているのか、京都大学だからできることは何なのか、ということについてお話をしました。研究に興味を持たれている参加者も多かったので、それぞれの分野での研究にはどんなものがあるのか、また研究者の生態についても話をしま

した。

大学入試に関する具体的な相談が出たり、大学に入ってから単位は取れるのか、サークル活動は？などの質問がありましたので、一緒に参加してくれた学生から回答してもらいながら楽しく時間をすごせました。

一言アピールは、人間健康は2017年組織改革を行い、先端看護科学コースと先端リハビリテーション科学コースに加えて、新しく総合医療科学コースが新設されました。私もそこでビッグデータ医科学としてデータに基づき新しい医療、技術を開発するということで勉強をさせていただいています。我々の分野は特に女性の活躍が期待されている分野だと思います。

(薬学部)

自己紹介のあと、薬学部の場合は入った後に6年、4年コースにわかれるので、薬学部全体のスケジュールを説明しました。

「薬学部とは」と聞いてみると、化学をやっていると薬剤師というイメージが多いようでしたが、実は化学も生物も物理も全部必要であり、必ずしも薬剤師でないこともありますし、研究も多かったですので、そのあたりを学生さんと一緒に伝えていくというところから始めました。

大学に入ってから研究だったり博士を出た後の進路だったり、具体的な質問が多かったです。みんなが思っているほどそんなに不安ではないということと、学生からも自分の研究室の雰囲気を話してもらったので、わかってもらえたのではないかと思います。

どういう風に進路をきめたらいいのか、学部をどうやって決めたらいいのかという質問には、私自身も高校生の時に明確に決めていたわけではないので、大学に入ってからいろんな人に会ったり、いろんな仲間や先輩たちに刺激を受けて決めた経緯がありました。なんとなくやりたいことをイメージして、食わず嫌いをせずに広く視野を持っていただき、その中からだんだん自分がやりたいことが見つかっていきますという話を最後にしました。

薬学部は学生は比較的女子が多いのですが、やはりドクターに進む人はそんなに多くありません。特に女性だからと特別扱いされることはなく、暮らしにくいわけでもなく、楽しい研究仲間として同じような世代の先生方とやっています。京大だけではなく広く薬学部を見ると、やはり子育て出産をしながら先生をしている人がたくさんいるので、世間から思われているほど大変ではないと思っています。

(工学部)

工学部では13名の参加者があり、自己紹介後に事前にいただいた質問に対し皆さんで話をするかたちで回答していきました。工学部をひとまとめにしてあったのですが、私は物理工学科ですし、学生は工業化学の学生でしたので、他学科のことについては、質問がおろそかになった部分もありましたが、ひとまず大学に入ってからの話や受験勉強の話が主に

なりました。その中で工学部というと男が多いという印象があって、その点に関しても不安な声が少し上がったのですが、こちらに関しても、男子学生は純粋無垢の学生達でとても協力的であると答えさせていただきました。重い荷物も持ってもらえます。分野が広いということで工学部の中でどの学科に行けばいいのか迷っているという話もたくさん聞きました。

工学部の中で化学系とか物理系とかいろいろあると思うのですが、その学科の名前だけで惑わされず、ぜひその中の研究室 HP を覗いていただいて、その中の研究というのがいかに分野で融合されたものであるかというのをぜひ見ていただきたいと伝えました。例えば物理系であれば少しバイオ寄り、生物寄りの内容と組み合わせた研究室もたくさんありますので、一度学科選択ガイドを見ていただいて、どの学科にするか検討してくださいと伝えました。

(農学部)

15名の参加者と話をさせていただきました。自己紹介後、フォーラム参加の理由についてお聞きしました。その後事前にいただいた質問を中心に話を進めていきました。農学部は6学科あり、最初に願書に書くときに学科の志望を書かないといけないので、あらかじめ受験するときは、考えておく必要があります。その6学科の中にはどのような学科があるのかを紹介させていただきました。HPに学科の説明や研究室の説明を出していますが、情報が進んだといってもなかなか外からは見えません。どういうことを実際にやっているのですかというような内容についての質問もありましたので、それぞれ説明を行いました。

特に私が所属しているところには、文系の学科もあるという話もしました。さらに実験系でも実験ラボでやっているところや、フィールドに出かけているところもあります。それぞれ卒論、卒業研究はどう言う風にやっているのかという質問について、それぞれ実験のやり方によって、こうゆう風になっていますよとお話をしました。あと授業のとり方や実際に授業を取るときにどのくらいの数を取っていますか等、なかなかわからないところについても話をさせていただきました。私がどういう家族構成か参加者にはわからなかったので、家庭との両立に関しての質問は出にくかったのかもかもしれません。私自身は家庭をまだ持っていないのですが、先輩や同僚の研究者はどんどん女性で家庭を持ちながら活躍していますということを伝えました。特に先輩の女性研究者の尽力だと思いますが、女性であるからという理由でこれを押さえなければというところがどんどん減っているのが現在だと思います。それは研究者でもそうですし、企業に就職してもそうです。そういう社会環境になりつつあるということを踏まえて、また感謝をしながらこれから進路を考えていていただきたいと思います。

(総合人間学部 文系)

最初に自己紹介、ウォーミングアップのような感じでグループで話していただく時間を持ちました。様々な質問が出ましたが、総人の場合は学系に入った後にわかりますので、

それまでの流れがどうなっているかとか、どのように学系を選択するのか、あるいは研究者に興味があるけれども、経済的にやっていけるのかとか、するどいご質問がありました。あるいは高校での学びと大学での授業とか評価の在り方はどう違うのか、受験勉強はどうすればいいのか、というプラクティカルな質問がありました。

質問の多くは、グループ担当学生と卒業生の方に答えていただき、なかなか短い時間でしたが、学問とは何かという本質にかかわるような質問もありました。例えば総人は特に文系は取らなくてはいけない単位がそれほど多くないので、自分で使える時間が多く、加えてこの専門でやっていくという面も確かにあると思うのですが、非常に幅広い学問を自分次第で学ぶことができます。そうした自分で自主的にどうやって学ぶかと、その与えられた時間をどう使っていくのかということでも質問がありまして、そこはやっぱり、高校でのこれだけのことを絶対に覚えて正解を出さなくては、という学問の在り方とは全く違ってくるわけです。与えられた自由な時間を幅広い可能性を持ったまま自分らしく、どういう風に学問を深めていくのかが総人の文系に求められるものですし、それが魅力かなということも学生の回答を聞きながら思いました。皆さん非常に明確な目的を持った方もいれば、まだ、迷っている方もいましたが、その中でも卒業生がおっしゃった答えの中で、非常に印象に残っているのは、今は私たちの第三世代の親世代とは違って、実際にこの道に行けば大丈夫という先が見えない。この企業に入れば大丈夫という道が見えない。見えない時代だからこそ、幅広いものを学んで与えられた時間を、これだけはやったというふうなものを見つけていくという意味で総人の文系は非常にいい場所だ。という答えが非常に印象に残っています。

(総合人間学部 理系)

毎年 8 月に開催しているオープンキャンパスに参加している参加者もいて、非常に熱心な議論をいただきました。まず最初に私の方から総合人間学部についてどういう風なイメージ、どういう風な情報を持っているのか聞いてみました。

他の学部と違って、学部の名前からは何をやってるかわからないということなので、聞いてみると非常によく調べていただいているようで、自由な京都大学の中でも、さらに総合人間学部は自由だと聞いているようです。我々の学部のキーワード「文理融合」ということですね。来ていただいた参加者の多くが文系に進むか理系に進むか迷っていました。文系にいるけれども理系科目が得意だとか、そんな話を聞いてよく調べていただいているなと思いました。一番ドキッとした質問は、総合人間学部というタイトルからより良き人間として生きるための学問を学ぶところだと思っています、と言われたことです。改めてこちらの方がドキッとしたというか、われわれもそうありたいなという風に思っています。一番の問題は理系か文系かというのをどう融合していくかということなのですが、文系理系半分ずつ入学試験では取っております。ですが、どちらでいったか実は教員はほとんど知りません。研究室に入るときにも聞いたりもしないのですが、要するに文系で入っても理系的な研究室

に行くとか、あるいは理系で入っても文系で過ごすことを、許容しているというか、それがより良き人間とする学問としての結果かなと思っています。

皆さん、認知科学、心理学というのは我々の学部の理系の中でも一番人気のあるところなのですが、そこを希望されている方もいて、まだまだ決まらない状態だけれども文理融合に魅力を感じているということを書いていただいて、そういう方には、ぜひ我々の学部にいらしていただければということをおもっています。

最後に女性教員としてアピールします。総合人間学部は、女性教員が多い学部です。ますます若い女性教員が増えておりまして、最近女子会を始めたりしながら、かつ全員専門が違うので、いろんなところで自分たちの専門の話をしあうというのがすごく刺激になっていいところです。教員同士の刺激もそうですが、入ってくる学生も非常にユニークでかつ優秀ですので、その辺も非常に楽しませていただいております。是非総合人間学部をよろしくお願ひします。

～他学部志望者からの質問～

【文学部への質問】

質問： 小説と作家自身の人生を照らし合わせた主題を探る研究例えば、平家物語とか夏目漱石とかと書かれているのですがそういう特定の小説とか作家の照らし合わせた主題を結びつけるような研究は文学部ですか。

教員： 文学作品を研究する上で、作者の問題、その作者がどういうことを作品をとおして言いたかったのかということをはっきりと明らかにするというのは、文学研究の一番本質的なところで、私たちの分野における研究では、やっぱりそういう一番本質的なことまで辿り着いてほしいと思っていますので、こういうのはまさに文学部に向いている研究テーマだと思います。いろいろな研究方法がありますが、まず作品をとおして時代であるとか、その時代に生きた人々の思いや気持ちを知るといったのが研究の目的です。平家にしろ夏目漱石にしろ、古典と現代文学でアプローチの方法は違いますけれども、いずれも基本的な方向は文学部で学べますので、もし興味があったら文学部を目指していただきたいと思います。

【教育学部への質問】

質問： 心理について興味があるのですが、教育学と心理はどのような風に結びついているのですか。

教員： 京都大学の中でも心理学を学べる学部はたくさんあると思うのですが、教育学部は古くから心理学を学べる学部です。教育というのも京都大学の場合は広い意味で教育というように考えておられて生涯教育というか、若い人が、生まれる前おなかに宿って産んでいってという、そのプロセス全体を教育として考えているところがありますので、そして生きていくってところで心のことというのが深く結びついているということで、教育学部の中に心理学が入っていると理解しています。

【法学部への質問】

質問： 法学部を卒業して海外の弁護士事務所に勤務する人はいますか。

教員： それは、日本では弁護士資格はなくて外国に行ってしまうのでしょうか？はい、ありがとうございます、すごくマニアックな質問ですね。もちろん、そういう方は

たくさんいらっしゃいます。法学部を出て、今のコースだとロースクールに行っていていただいて就職をして、就職したところから海外へ派遣していただけるところも非常に増えています。それは、裁判官が裁判所から海外の法律事務所に行く方もいますし、もちろん弁護士事務所から海外の法律事務所に行かれる方もたくさんおられますので、そこはむしろ今後はそういう人たちが非常に増えてくると思います。世界の弁護士事務所の支店が日本にできるということもたくさん出てくると思います。国際的にも充分活躍できるようになってくると思います。

アピールとして、一つは今まで法律は男女関係なく中立的だと思われていたのですが、昨今の様々なニュースをご覧になってもやはり法律の世界にも男子と女子、男性と女性性というジェンダーということが大きく影響しているということがだんだんわかってきていると思います。そういう視点からも女子学生にもっともっと力をいただければと思います。女性は法律に向かないということを昔は言っていましたけど、今見ますと女子学生の緻密さ真面目さや権力におもねらないところは非常に法律家向きだと思っています。もっともって潜在能力のある方がおられると思いますので、ぜひ来ていただければと思います。

【理学部への質問】

質問1： 工学部との違いは何ですか。

教員： それは、工学部は役に立つことをされます。理学部は役に立つことの保証がなくてもいい。何でそう起こっているのか、どういう仕組みでそういうことが起こっているのか。それを突き詰めたい、というのが多分理学に強い意志としてあると思います。役に立たなくてもいいので、その仕組みと何で？ということを明らかにしたい、ということだと思います。

質問2： 就職先はどのようなところですか。

教員： 今日のグループワークでも出ていたのですが、例えば資格が必要とか、免許が必要とかについては、やはり制限されますが、それ以外についてはどんな仕事に対しても就けるとと思います。理学部に来たからこういう仕事という考えをせずに、自分のしたいことそれを一步として理学部に来ていただくことを考えて、そこで一つ極めていただきたいと思います。

質問3： どんな研究をしているのですか。

教員： 私は、地震のことを研究しています。地震のことを研究していると予知できますかと聞かれてしまうのですが、はっきり申し上げておきますが現時点では地震の予知はできません。じゃあ、私は何をやっているのか。私は実は物理が好きで、その物理を使って地球の中の波動を考えることによって地球の中がどんな構造になっているか、それから地震が起こる仕組みはどういう風になっているのか、地震予知は役に立たないと思うのですが、やはりその真実を知りたいという研究を計算機を使ってやっております。

アピールは、理学部は役には立たないかもしれませんが。でもやっぱり何でそうになっているの、何でそう思っているの、というような好奇心を満たせる分野だと思います。そして来ていただいた時には、いろんな理学が学べます。3回生までは、本当に自由に勉強ができますので、ぜひどういうことがやりたいのか、迷っている方を含めて、理学部を考えていただけたらいいなと思います。

【医学部医学科への質問】

質問： 医学部に進学できた場合は小児科や産婦人科など様々な医療分野を体験する機会はあるのでしょうか。

教員： 医学部に入っていたら、6年間で卒業して医師国家試験を受けて医師になります。最初、初期研修医の期間が2年間ありまして、そこで必修の科目、内科、外科、麻酔科、救急など、あとプラス自分の志望した科を回ります。産婦人科と小児科は確か必修になったと思います。希望した科は少し長く回るという選択もできます。私は小児科で特に新生児で NICU 病棟を診ているのですが、NICU はつい最近、全国の総合周産期母子医療センターに認定されました。今まで京都府の中では、すぐ近くにある京都府立医科大学の関連の病院が総合周産期だったのですが、京大も力をつけて総合周産期に認定されまして、産科の方も母体・胎児集中治療室 MFICU というものを整備して、こちらの NICU も今日ちょうど病棟が移転して、もう少し病床が増えまして京都の中では京大が一番だと頑張っているところです。

先のグループワークのなかであった質問ですが、京大の医学部の学生が、チューターされている塾で、東大は研究が一番、京大は臨床の方が強いみたいなことを言われたということを知ったのですが、京大は臨床が主で研究が二の次とかいうことは決してありません。小児科も新生児の分野では、研究がなかなかできず、人数も少なく臨床ばかりだったのですが、最近たくさんの方から人も来てくれて研究もできるようになってきていますし、決して東大に劣るということはないと思っていますので、京大の医学部をぜひお願いしたいと思います。

【工学部への質問】

質問： 医学部人間健康学科志望の方ですけれども、医療行為で使用するナノシートや人工弁などを作ることに興味があるのですが、工学部のどの学科になりますか。

教員： 材料にもよると思うのですが、もし材料が化学的なプロセスでできているのであれば工業化学科のほうへいった方がいいと思いますし、もう少し有機物とかそういうものでできているものであれば、機械系でも結構カーボンのナノシートとかそういうものを研究されているところはあります。ただ、申し訳ないですが、この時点でそういう研究室がどの学科にあってということは答えられませんね。ぜひHPを見ていただきたいです。

アピールは、先ほど理学部とも対比がありましたけれど、確かに工学部というのは大衆的に人の役に立つものだと言えれば、研究できている感じがします。もし身の回りにある人工物、建物でもいいし、スマホでも何でもいいですが、そういったものに興味がある人、それを自分で作ってみたいと思っている人、ここにこういう機能があったら絶対おもしろいと思っている人とか、とにかく物に興味がある方はぜひ男女関係ないので、来ていただければと思います。

【農学部への質問】

質問1： 農学部を目指すなら生物・物理選択では生物を選んだ方がいいですか。物理を選ぶと農学部に入ってから苦労しますか。

教員： よくある質問だと思います。私も化学・物理選択で農学部に入りましたが、確かに入ってから生物を学んできた人と比べると基礎的な知識が足りないということで、結構大学に入ってから学び直さなければならなかったことがたくさんありました。グループワークでも出たのですが、逆に言うと物理選択だった自分は、生物選択の人に比べて物理的な考え方ができる。そういう人とは違ったこともできる。それはいいことなので、必ずしも農学部だから生物をとらなければならないということもありませんし、おそらく他の学科でもそうだと思うのですが、化学であっても充分農学部でやっていけると 생각합니다。

質問2： どのような進路や就職先がありますか。

教員： そうですね、農学部は学科にもよりますが、非常に幅広い分野ですのでよくあるのは、食品系ですとか種苗会社、あるいは工業会社もよく就職先としてありますし、あと研究者として大学あるいは企業にとって活躍する人も、製薬会社に行く方も

多くいます。非常に幅広い就職先があります。可能性は無限だとお伝えしておきます。

質問3： 農学部で学ぶ消費者構造や経営意思決定とはどのような内容ですか。

教員： 私自身の研究テーマについて、質問いただいたと思うのですが、農学部の中に食料環境形態学科という文系の学科がありまして、経済学部とも一部交流がある学科でもあります。経済学部とどう違う経済学をやっているのかといいますと、対象としての農業や食品、食料を扱っていることです。経済学部の中でも農業経済学をやっている研究者の方がいらっしゃいます。そこでやっている消費者行動学とか経営意思決定の話ですが、特に農学部の中でこういう研究をしようとする、食品購買行動、例えば昨今の問題ですと東日本大震災があった後、福島やその近辺の農産物について買い控えが起こりました。それは基準値、放射線物質の汚染が基準値以下のレベルであっても福島産、何々産というだけでももうやめておこうという、そういう消費者行動が生まれて産地としては非常によくないダメージがあるわけです。で、その時にどういう情報提供をしたらいいのだろうか、消費者に訴えかけたらいいのだろうか、というところを研究することによって、日本の農業を、特にその場合ですと、その地域の農業のサポートをするという形の話になって、消費者が選択をするときに、どういうことを考えて、あるいは考えずに選んでいるのかということの研究をしています。経営意思決定の方は、特に農業生産者とか、あと企業の行動がどうかということなのですが、例えば最近、有機農産物を買うという動きが消費者の間でも日本でも広がってきましたが、そもそも農業者にとっては、非常に手間とコストのかかる農法でありまして、それでも選択するというところのどこに意思が働いているのか。企業としても例えばレアトレードを推進していきこうという企業が、そういう意思決定を行う上で、どういう条件が整うとそういういい意志決定が生まれるのか、そういった研究をしています。

アピールは、農学部というのは、非常に幅広い分野で学科を見ても様々な分野があります。もし興味のある方がいらしたらぜひHPで細かく研究室、そして研究者ごとにどういうことをやっているのか是非見ていただいて、関心があったらメールを送ってみるなど、アクセスしてみてください。これから環境問題も言われていますし、食料問題もこれからどんどんもっと考えていかなければいけない問題がありますので、ぜひそこに興味のある人は、農学部を考えてみてください。

【総合人間学部への質問】

質問： 海外のフィールドワークのお話があったのですが、現地の方と会話できる英語力は、どうやって身に着けられましたか。

教員： 問題は人文学で対象としている地域の人たちが必ずしも英語ができるとは限らないということです。私は、タンザニア系ではスワヒリ語を話してまして、ガーナではトウィ語、アカン語の方言を話していたのですが、それはあまり日本でも学べるところはないのです。だから先ほどの講演でも大体1年から1年半くらいフィールドに行っていると申し上げたのですが、最初はほとんど言葉を学ぶのに費やされます。生活を丸ごとそこでしてますので、最初ほんとに片言の子供の言葉みたいなから始めて、だいたい数か月たつとしゃべれないと生活できませんので、必然的に生活している中で覚えていくというのが人類学的な語学の学習の一つの特徴かなと思います。もちろん外国語大学とかへ行っている場合はそこで集中的に学んでから行くということもありますが、まず自分が一回子供のような状況に戻って、一から生活する中で言葉だけではなくて、振る舞いから覚えていくというのが人類学的なフィールドワークの醍醐味かなと思います。英語力に関しては、人文学でも学会発表をするとか、国際学会に行くとかになれば、英語で発表しないといけません。ですので現地語プラス英語力というのは必ず必要なわけですけども、多少それは場数を踏むといえますか、無理やり学会で発表するために、と自分を陥れて何とか勉強しています。具体的にプラクティカルな方法として、インターネットでBBCワールドサービスが聞けますので、それを毎朝毎朝聞いていますと、何となく喋れて聞けるようになってきました。そういうプラクティカルな方法が役に立つかなと思います。

アピールは、総人というところは幅広く学べる自由度が高いところで、だからこそ道に迷ってしまう部分もあると思うのですが、自分を試して、どんな方向でも行けるくらいの自信を持てるような、そして学びができるようなところだと思いますので、今迷ってるけど何か自分の可能性を試したいという人はぜひ総人に来ていただけたらと思います。もう一つ申し上げたいのは大学院の人間・環境学研究科の方でも教えているのですが、学部で入るだけが道じゃないと言っておきたいです。大学院から別の大学を目指すことも、そういう道もありますので、ぜひ学部だけで終わるのではなくて、その先も、と考えていただけたらなと思います。

(文責 男女共同参画推進センター)